

「地の果てに至るまで」

使徒言行録 1：6-11
イザヤ書 49：5-6

2023年5月14日
野村 友美 師

<出たくない境界線>

先週は皆さんにとって、どんな一週間でしたか？ 私にとっては、縄張りが広がった1週間でした。まずは、広の教習所までペーパードライバー講習を受けに行き、10年ぶりに車の運転にチャレンジしてきました。元々、知らない場所に行ったり新しいことにチャレンジするのは嫌いじゃない方なので、ちょっとワクワクしました。それでも、ワクワクする以上にやっぱり、ものすごく怖かったです。教習所の中を走っているときはまだ良かったんですが、普通の道路に出たらもう怖くて怖くて、隙あらばブレーキを踏もうとしていました。そしてそれから3日間ぐらい、全身が筋肉痛になりました。よっぽど緊張したんでしょうね。

もうひとつ、先週は呉に来てから初めて、広島駅まで行ってきました。私のパソコンの修理を受け付けてくれるところが、他になかったんです。久しぶりの遠出でとても楽しかったんですが、帰ってきて呉の駅前の景色を見たら、何だかホッと安心しました。

誰にとっても、自分の縄張りとか安心できる範囲みたいなものがあると思います。それは

場所だけのことだけじゃなくて、心とか気持ちの面にもあるでしょう。いつもの生活や、馴染んでいる場所から外に踏み出すのはちょっと怖くて緊張するのと同じように。自分には関係ないと思っていること、自分とは違う文化や価値観に心を開けるのは、なかなか簡単じゃありません。最近は「多様性」ということがよく言われますし、そうじゃなくても、お互いに違う文化とか、価値観とか、個性を否定し合わないことはとても大事だと思います。

自分に直接関係があってもなくても、社会の情勢や、世界のあちこちで起きている深刻な問題を知って、考えて、時には何か行動することも必要です。そう、頭ではわかっているんですが、自分に近くない人や物事と関わるのは本当に難しく、心にも体にもエネルギーが要るものです。だから私たちはいつも、安心していられる「ここまで」という境界線を自分の中に引いているんじゃないでしょうか。私にできるのはここまで。私が知りたいのはここまで。私に関わりたいのはここまで。

時には勇気を出して境界線を越えて、縄張りを広げる機会もあるでしょう。うまく広がったら、新しい出会いにワクワクして嬉しくなります。だから、体や心が元気で余裕があるときには、ちょっと境界線を越えて冒険もするけれど、普段は境界線のこちら側で安心したい。縄張りから出なきゃいけない時も、なる

べく遠くには行きたくない。それは多かれ少なかれ、誰もが持っている感覚じゃないかと思えます。

<弟子たちの境界線>

イエス様の弟子たちにも、なかなか出られない、出たくない境界線があったようです。十字架で死なれて復活したイエス様と、弟子たちは40日間一緒に過ごしました。そしてある日、彼らはイエス様のそばに集まって、こんなことを尋ねます。主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか？一度死んでよみがえるなんて、神様の力としか思えないことを実現されたイエス様に、弟子たちは「今こそ！」と期待したんでしょう。

復活された今こそ、イエス様はメシアとしてイスラエルを建て直してくださる。今こそローマ帝国の支配を終わらせて、神様が支配される神の国にしてくださる。そんな期待を彼らはイエス様に向けていました。メシアであるイエス様は、イスラエルの王様になって他の国と戦うためじゃなくて、すべての人が救われて神の国の民になるために来られた。そのことは、弟子たちもしっかり受け取っていたはずでした。神様の愛と平和がすべての人を治める神の国について、40日かけてイエス様からみっちり教えられていたんですから。

神様はイエス様を通して、イスラエルだけ

じゃなくてすべての国の人を罪から救い出して、神の国の民にするとお決めになられた。それは認めるけど、イスラエルこそ神様から選ばれた特別な民族だ、他の国の上に立つ国だ、という価値観はなかなか変えられなかったようです。だから彼らは、あえてイエス様にこう尋ねます。「イスラエルのために」国を建て直してくださるのは、「この時」ですか？この弟子たちの質問はまさに、彼らの境界線そのものでした。イエス様が復活なされたこの時こそ神の国が建てられるタイミングだ。まずは特別な民であるイスラエルが、神の国として建てられるはずだ。そこが弟子たちにとって出られない、出たくない境界線だったんです。だから彼らは、自分たちの境界線の上に立ってイエス様に尋ねています。今この時にこそ、イスラエルのために、神の国が建てられるんですか？と。そんな弟子たちに応えて、イエス様はまず彼らの「今こそ」という境界線を崩されました。「今なのか、いつ起こるのか」なんてタイミングを、あなたたちが知る必要はない。それは、神様が御自分の権威でお決めになることだ。そんなことより、と弟子たちが本当に知っておかなきゃいけないもっと大事なことについて、イエス様は彼らに話し始めます。

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の

果てに至るまで、わたしの証人となる。」

弟子たちが今いる場所、イスラエルの首都エルサレムだけじゃなくて、昔2つに分かれてしまったイスラエル民族の国、ユダヤとサマリアの全部で。そしてそこからもっと先、地の果てに至るまで、あなたたちはわたしの証人になるんだ、とイエス様は壮大なスケールで、これから弟子たちが送り出されていく先を示しておられます。

やがて弟子たちのところに降ってこられる聖霊が、彼らの境界線を今いる場所からもっともっと遠くまで、地の果てに届くまで広げる。そうイエス様は宣言しておられるんです。当時の人たちにとって世界は平らで、地の果ての先には何もありません。

地の果てに至るまで。それは、人間が認識できる世界のすべてを表している言葉なんです。イエス様の十字架と復活の出来事、神様からすべての人に差し出された愛と救いを証言するために、あなたたちは自分の境界線を越えて、どこまでも出て行けるようになる。あなたたちに与えられる聖霊が、あなたたちの境界線をどこまでも広げてくれる。そう約束して、イエス様は弟子たちが見ている前で天に上げられました。

<地の果てに至るまで>

ルカによる福音書は、この時のイエス様が弟子たちへの祝福を祈りながら、天に上げられたことを伝えています。祈らずにはいられないほど、イエス様は御自分の弟子たちを愛しておられたんです。弟子たちだって、ずっと従ってきたイエス様と離れるのはどうしようもなく寂しくて、心細かっただろうと思います。

寂しくて名残惜しくて、「もしかしたらまだちょっとイエス様が見えるかも」なんて期待したのかもしれませんが。イエス様の姿が雲に覆われて見えなくなった後も、彼らはじっと天を見上げて立ち尽くしていました。そんな弟子たちに、白い服を着た2人の人、神様からの天使が声をかけます。なぜずっと天を見上げて立っているのか。あなたたちから離れていったのと同じようにして、イエス様はまたおいでになる。天使たちのこの不思議な言葉は、弟子たちを叱りながらも励ましているように聞こえます。

天に上げられたイエス様が、またあなたたちのこの世界においでになる日が来る。だからその日のために、自分たちが生きている世界にしっかりと目を向けて、イエス様の証人として出て行く準備を始めなさい。そう天使は弟子たちを励ましているんです。自分の境界線から出られない弟子たちを、聖霊が出て行かせてくださる。神様の愛と救いを証言するた

めに、地の果てに至るまで境界線が広げられる。このイエス様の約束は、旧約聖書の時代から神様が語っておられた約束でもあります。旧約聖書の預言者イザヤは、神様から与えられた約束について、こんな言葉で証言しています。

「主の御目にわたしは重んじられている。わたしの神こそ、わたしの力。今や、主は言われる。ヤコブを御もとに立ち帰らせ、イスラエルを集めるために母の胎にあったわたしを、御自分の僕として形作られた主は、こう言われる。わたしはあなたを僕として、ヤコブの諸部族を立ち上がらせる。イスラエルの残りの者を連れ帰らせる。だがそれにもまして、わたしはあなたを国々の光とし、わたしの救いを地の果てまで、もたらす者とする。」

(イザヤ49:5-6)

神様のしもべとして、イザヤはイスラエルの人々に、神様の言葉と思いを伝えていました。たとえ王様や権力者たちが相手でも、神様からの厳しい言葉をそのまま語らなくてはいけない、それが預言者の役目です。こんなことを伝えたらどうなるか、と怖くて足がすくむこともあったでしょう。預言者として選ばれた時、「私は汚れた者だ、神様と関わるのにはふさわしくない」と自分が恐れおののいたことも、

イザヤは告白しています。

出られない、出たくない境界線を、イザヤもまた持っていたんです。それでも神様はイザヤに、「わたしはあなたを国々の光とし、わたしの救いを地の果てまで、もたらす者とする」と約束して、その境界線を越える力を、イザヤにお与えになりました。神様の約束どおり、預言者イザヤが語った言葉は国も時代も越えて、今の私たちに至るまで、神様の言葉と思いを伝え続けています。イエス様を救い主と信じて、神様の愛と救いを受け取る決断をした者たち。聖霊のバプテスマを受けた一人一人にも、イエス様の弟子として働く力、境界線を越えて進む力が与えられています。怖くて不安で足がすくむときにも、「私なんかふさわしくない」とうつむいてしまうときにも、聖霊が私たちに力を与えて、神様の愛と救いを証言させてくださるんです。

私たち自身の力も思いもはるかに越えて、私たちの境界線はどこまでも広げられる。この約束を受け取って、新しい週も私たちはここから それぞれの場所へと出て行きましょう。

聖霊と一緒に、地の果てに至るまで。

お祈りいたします。